

人間文化学科通信

杉井ゼミの紹介

号外⑥

杉井ゼミは、フィリピンをはじめとする東南アジア、東アジア諸国の文化や社会について学ぶゼミです。担当教員の杉井は、社会人類学とフィリピン研究を専攻し、フィリピン北部の先住民や日系人の社会について研究していますが、ゼミでは地域やテーマを狭く限定せず、東アジア、東南アジアのいずれかの国・地域・民族に関心があれば、無理なく参加できるような授業をしています。

3年のゼミでは、東アジアと東南アジアの「文化」について学びます。文化といっても、美術・芸能や文化財などを取り上げるのではなく、人々の常識、当たり前のこと、普段の物の見方や考え方のことです。「県民ショー」に似ていますね。中国、韓国、台湾、フィリピン、タイ、インドネシアなど、それぞれの国（文化）ごとに、いかに考え方や常識が違っているか、ゼミ学生は写真に写っている本のどれか（など）を読んで報告しあうことで、理解を深めていきます。



このような学びを基礎にして、3年生の後期から個人研究が始まり、4年生になると、東南アジア、東アジアのいずれかの国・文化や、その日本との関わりなどについて卒業論文を作成します。テーマの設定はまったく自由で、実に多様なテーマをみんな設定しますが、どんなテーマを選ぶにせよ、3年ゼミの学びは個人研究の栄養素になっていると思っています。



ところで、文化は、なにも外国だけにあるもの（異文化）ではありません。私たちの日常生活もまた、文化です。私たちの身の回りにも目を配り、異文化の人が驚くような「日本の文化」を探すこともゼミの学びの一つです。どんな気づきや発見があったのか、大学祭のゼミ展示「文化って何だろう？ 写真展」で毎年、発表しています。さて、今年はどんな発表ができるか、楽しみですね。

もう一つ、是非紹介したいのが、オープンキャンパスの企画です。杉井ゼミでは以前から東アジア、東南アジアに短期留学する人が何人もいましたが、コロナ開け以降は、毎年1人以上が、韓国中部の忠南大学に半年以上派遣留学（交換留学）しており、杉井ゼミは韓国留学ゼミにもなっています。そこで、ゼミの韓国留学経験者と留学予定者が留学生活やその準備について高校生に紹介するイベントを、毎年、どこかの月のオープンキャンパスの中で開催しています。留学の振り返りや刺激を受ける機会として、これからも大事にしたいと思っています。



人間文化学科の「海外フィールド実習」は2026年度、フィリピンでの実施が計画されています（未決定）。もし実施されれば、入学者のみなさんにも多数参加してもらいたいなと強く願っています。（杉井 信）